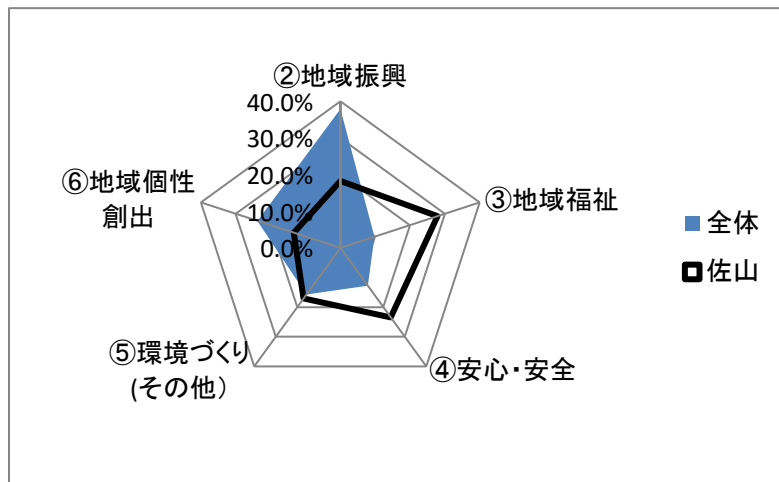


佐山地区地域づくり協議会 地域づくり交付金事業概要(令和3年度)

■地域の情報

地域人口	2,592人	自治会数	12
世帯数	1,020世帯	自治会加入率	87.6%

※数値は、令和4年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	9,554,000 円
交付金決算額	9,553,955 円
その他収入	36 円
交付金決算額/配分額	100.0%

各分野の決算

①協議会運営	3,610,696 円
②地域振興	517,250 円
③地域福祉	790,332 円
④安心・安全	664,581 円
⑤環境づくり(土木工事)	3,111,000 円
⑤環境づくり(その他)	482,039 円
⑥地域個性創出	378,093 円
決算総額	9,553,991 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

地域の住民や各種団体等が相互に協力・連携することにより、コミュニティ意識を高め、地域全体で課題の解決に取り組み、安心して暮らせる地域づくりを目指します。

■総括

今後も、行政や地域団体等と連携しながら、今年度策定した、佐山の暮らしを良くするための「第4次佐山地区地域づくり・福祉活動計画(令和4~8年度)」を地域全体で着実に実行することで、子どもから大人までの幅広い年齢層の交流を図り、地域の中で人と人をつなぎ、安全安心で住みやすい地域をつくります。

■分野別事業名

① 協議会運営	協議会及び事務局の運営
② 地域振興	地域づくり協議会だより発行事業、地域づくり計画策定事業、地域活性化交流活動推進事業、地域振興活動推進事業
③ 地域福祉	買物・病院便運行事業、健康づくり活動推進事業
④ 安心・安全	自主防災組織基盤強化事業、子ども見守り事業、交通安全対策事業
⑤ 環境づくり	土木工事(法定外公共物)、フラワーロード花壇整備事業、地域環境整備事業、ふれあいの森整備事業
⑥ 地域個性創出	フラワーロード研修・交流広場整備事業、地域イベント開催支援事業

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	自主防災組織基盤強化事業	決算額	421,641円
	目的	自主防災組織の基盤強化を図ります。		
	実施内容	避難所となる地域交流センター(行政)と連携しながら、自主防災会本部や各地区の自主防災リーダー・自治会長を中心とした「コロナ禍における総合防災訓練」を実施し、地域内の防災意識及び防災組織力のさらなる向上を図りました。		
	実施時期	令和3年6月6日、7月9日、11月28日、令和4年1月30日		
	参加人数	1,624人		
	成果・評価	昨年度と同様、避難所となる地域交流センター(行政)と連携し、新型コロナウイルス感染症に対応した防災避難訓練を実施したことで、各地区での避難所運営(段ボールベッドや間仕切りの組み立て、非常食の作り方、発電機等防災資機材の点検)、無事旗を活用した自宅避難や要配慮者の安否確認等の対応を再確認することができました。		
	今後に向けて	今後も、自治会や行政と連携しながら、「命を守る行動」をとる避難訓練や、各地区とのトランシーバー交信訓練、災害の種類や対象者に応じた各種防災研修を継続し、地域全体の防災体制を整えます。		
②	事業名	フラワーロード花壇整備事業	決算額	387,278円
	目的	地域内の環境美化と、世代間の交流を図ります。		
	実施内容	新型コロナウイルス感染症対策の工夫をしながら、地域のボランティア組織「フラワーロード佐山」を中心に、国道190号線沿いの花壇づくりを行いました。		
	実施時期	通年		
	参加人数	1,200人 定期(年2回の植え付け) 令和3年6月19日:46人、12月2日:36人、4日:44人		
	成果・評価	12月の花の植え付けを「フラワーロード佐山」のスタッフのみと、小学3年生のみの「子どもたちの植え付け体験」に分けて実施したことで、「フラワーロード佐山」のコアスタッフに指導を受けながら、佐山小学校3年生が国道190号線沿いの花壇1区画にピオラを植え付けることができました。		
	今後に向けて	今後も、「子どもたちの植え付け体験」を継続し、地域内の環境美化と、世代間交流の場となる花壇づくりを行います。		
③	事業名	買物・病院便運行事業	決算額	786,240円
	目的	交通弱者の日常生活を支える交通手段を確保します。		
	実施内容	コミュニティタクシーと連携し、地域外(阿知須)への「買物・病院便」を週3回運行することにより、地域内の交通弱者の日常生活を支えるとともに、コミュニティタクシーのさらなる充実を図りました。		
	実施時期	週3回(月・水・金)		
	参加人数	1,219人(利用者)		
	成果・評価	阿知須方面への「買物・病院便」の運行により、交通弱者への生活支援と、コミュニティタクシーのさらなる充実を図ることができました。		
	今後に向けて	今後も、コミュニティタクシーを活用した地域外への運行を継続し、交通弱者の日常生活を支える交通手段を確保します。		